

中国語母語話者の「学校カルチャー語彙」の理解度分析 —学校お便りコーパスの複合名詞に注目して—

李曉燕

九州大学大学院比較社会文化研究院

lixiaoyan@scs.kyushu-u.ac.jp

1. はじめに

日本の学校教育において、学校と保護者との主要なコミュニケーション手段となっているのは「プリントの配布」である。学校が配布するプリントは、非常に緊急性及び重要性の高いものから低いものまで、多種多様である。日本人保護者は日本で学校教育を受けており、小さい頃から学校プリントになじみがある。そしてそれらを少ない労力で理解するストラテジーを身に付けていると考えられる。しかし、このような知識を外国人保護者が知るためには、日本人保護者には暗黙的に獲得されたストラテジーを、明示的な知識に変換することが必要である。プリントが理解できなかったため学校とコミュニケーションがうまくとれずにトラブルが発生し、やむを得ず子供たちをつれて帰国したケースも度々ある。学校プリントの読解は、言語力を超えて、日本社会で生き抜く能力の範疇に入ると言える (李, 本田, 2015)。

法務省の調査によると、2015年時点で在留外国人は217万人を数え、そのうち中国人は66万人と多くを占めている¹。2014年5月1日時点で、日本の公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒は29,198人(27,013人)で、日本語指導が必要な外国人児童生徒を母語別の割合で見ると、中国語話者は22.0%占めており、ポルトガル語を母語とする者(28.6%)について二番目に多い(文部科学省, 2014)。本研究は、「組体操」や「PTA」など日本の「学校」という特定の文脈においてのみ使う言葉を「学校カルチャー語彙」と定義し、中国語母語話者の保護者を対象に、学校プリントに出現頻度の高い「学校カルチャー語彙」の理解度を考察する。

2. 学校お便りコーパスの概要

学校お便りコーパスは、平成24年度から26年度にかけて兵庫県神戸市、大阪府大阪市、福岡県福岡市、福井県坂井市の4つの自治体から延べ810枚のプリントを収集して構築した。総文字数は880,869字である。810枚のプリントを、手作業で「総合」「食育」「保健」「安全」の4つの領域に分類した。「総合」は学級だよりや学年だよりなど、総合的な情報提供を目的としたもので、「食育」は給食だよりや献立表など、「保健」は保

¹ 法務省「政府統計の総合窓口」<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001139146> 「国籍・地域別 在留資格(在留目的)別 在留外国人」(2016年1月5日アクセス)

健だよりなどであり、「安全」は交通安全の注意喚起などを目的としたプリントである。
表1は、自治体と領域ごとのプリント枚数と文字数をクロス集計したものである。

表1 自治体と領域ごとのプリント枚数と文字数

		総合	食育	保健	安全	計
兵庫県神戸市	枚数	334	80	33	56	503
	文字数	342,750	103,100	28,134	45,327	519,311
大阪府大阪市	枚数	120	36	11	0	167
	文字数	108,371	88,589	13,097	0	210,057
福岡県福岡市	枚数	50	15	11	0	76
	文字数	48,700	21,892	8,156	0	78,748
福井県坂井市	枚数	49	12	3	0	64
	文字数	42,844	26,742	3,167	0	72,753
計	枚数	553	143	58	56	810
	文字数	542,665	240,323	52,554	45,327	880,869

3. 学校カルチャー語彙の選出

従来、地域の日本語教室では会話の指導・支援が中心とされてきたため、「文字を読む」ための支援が課題になっている（李，本田，2015；本田・松田，2013）。中国語母語話者の保護者は、同じ「漢字」を使っているという点から、非漢字圏の保護者より日本語理解において比較的有利だと考えられている。中国語母語話者にとって、そもそも学校プリントのどんなところが難しいと感じているのだろうか。その上で、日本語力中級程度の中国語母語話者にとっても、学校プリントを読むのは困難なことなのか、の二点を調査する

表2 学校カルチャー語彙・複合名詞 50

1	授業参観	11	鍵盤ハーモニカ	21	校外学習	31	書き初め会	41	世帯配布
2	始業式	12	自然学校	22	避難訓練	32	子供会	42	職員室
3	体操服	13	個別懇談会	23	給食当番	33	赤白帽子	43	職業体験
4	連絡帳	14	献立表	24	就学援助	34	給食袋	44	資源回収
5	懇談会	15	開放プール	25	給食開始	35	朝読書	45	習字用具
6	修学旅行	16	集団登校	26	学級委員	36	プール開き	46	飼育小屋
7	学習参観	17	クラブ活動	27	校区内	37	学童保育	47	自由服
8	学校行事	18	家庭学習	28	学校便り	38	安全マップ	48	集金日
9	給食費	19	時間割	29	蟻虫検査	39	手提げ袋	49	道具袋
10	通学路	20	委員会活動	30	給食試食会	40	自由研究	50	内ズック

ために、2015年12月～2016年1月にかけて、中国籍の保護者3人にインタビューを行った。3人の保護者はいずれも30代の女性で、日本語力は中級～上級である。学校プリントの読解について、「同じ漢字を使っているが、組み合わせによってよくわからない」という声が共通した意見であった。例えば、『自然』と『教室』はどちらもわかるが、『自然教室』は最初さっぱりわからなかった。今回のインタビュー調査によって、複合名詞の理解が困難であることがわかった。

そこで、学校お便りコーパスにある17193の複合名詞から、筆者自身が生活者としての外国人保護者の立場から、学校の文脈から離れると意味が分からない、すなわち「学校カルチャー語彙」の複合名詞を50抽出した（前頁表2参照）。

4. 中国人日本語学習者の学校カルチャー語彙理解度調査

筆者は、2015年12月と2016年1月に2回分けて、九州大学において学校カルチャー語彙の理解度について調査を行った。調査対象者は中国人留学生3人と日本人学生1人である（表3参照）。調査は以下の三ステップで行なわれた。①選出された日本の学校カルチャーを反映する50の単語の意味を、調査対象者4人に、自分で理解した意味を書いてもらう。②上記語彙の50の複合名詞を中心に、各自の理解した内容を話し合い、4人で共有する。③保護者としての立場からの筆者、及び日本での義務教育経験者としての日本人学生が、それぞれの語彙について日本の学校の諸事情を説明し、学校カルチャー語彙の理解を確認する。

表3 調査協力者情報

	年齢	学年	日本語学習歴	日本語能力	来日期間
留学生 A	25	修士1年	3年	N1	1年3ヶ月
留学生 B	24	修士1年	6年	N1	1年4ヶ月
留学生 C	25	修士2年	7年	N1	3年
日本人学生	19	学部1年	—	—	—

調査の結果、留学生3人の正解率は、Aさんは36%、Bさんは40%、Cさんは44%であった。N1の日本語能力を持っているにも関わらず、留学生の正解率が低い点は注目に値する。学校カルチャー語彙の理解の難しさを分析すると、以下のタイプが考えられる。

1) 中国では同じもの/ことがあるが、日本での使い方が違う。

「体操服」について、日本や中国だけではなく、世界中でこのような言い方があると考えられる。しかし、中国の多くの学校の制服は、動きやすいスポーツウェアのような服である。調査協力者の3人の留学生全員が、「体操服」について「体操をする時に着る服のこと」や「運動をする時の服装のこと」と答えた。この回答は、中国では日本のように、体育の授業の際に専用の服に着替える習慣がないからだと考えられる。

2) 中国でもよく聞く言葉だが、ディテールはわからない。

「修学旅行」や「集団登校」などの複合名詞は、中国語としてそのまま中国で用いている。特に日本語専攻の学生にとってはなじみのない言葉ではない。しかし、それについて意味を書くと、細かい点で理解のギャップが見られた。例えば、修学旅行は「期末テストの終わりに先生と児童と一緒に旅行をすること」、「卒業前のクラス全員での旅行のこと」など、理解に揺れがあることがわかった。また「集団登校」について、「仲良しの児童と一緒に学校に行くこと」、「不良の集団が学校に行く」などの答えもあった。

3) 意味は推測できるが、本当のことはわからない。

「自然学校」²⁾について、「豊かな自然の中で行う学習」という意味を憶測はしているようだが、「自然が豊かなところに設立された学校」や「農場などで農業などについて勉強すること」などの答えが出た。「山等の自然にみんなで行き、自然について学ぶ宿泊学習のこと」という正確な意味は推測できなかった。

4) 中国では見られない物事

例えば「鍵盤ハーモニカ」は中国ではほぼ存在しない。筆者は、小学校の先生に実物を見せてもらい初めてわかった。最も正解に近い回答は「ピアノとハーモニカで合奏すること」であった。

5. おわりに

本調査を通じて、学校カルチャー語彙の複合名詞の理解が難しいことが明らかになった。今後は、今回の調査協力者が記述した複合名詞の意味を活用して学校カルチャー語彙のアンケート調査を作成し、外国人と日本語母語話者を対象に量的調査を行なう。その結果から本稿における結論を検証・修正し、複合名詞を外国籍の保護者に優先的に教える必要性を確認する。

参考文献：

- 本田弘之、松田真希子(2013)「小学校配布プリントで使用される語彙の調査分析—「こどもを持つ母親」への日本語支援のために—」『2013 年度日本語教育学会春季大会予稿集』文部科学省 (2014)『『日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査 (平成 26 年度)』の結果について』 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1357044.htm
- 李曉燕・本田弘之 (2015)「学校プリント読解のストラテジーの解明—生活者としての外国人保護者に対する日本語支援の視点から—」EJHIB2015 国際語としての日本語に関する国際シンポジウム予稿集

謝辞：学校お便りコーパスの元となる学校配布物を提供して下さった本田弘之先生 (北陸科学技術先端大学院大学)、松田真希子先生 (金沢大学)、コーパス作成に当たってご協力をいただいた本田弘之先生、森篤嗣先生 (帝塚山大学) に深く御礼申し上げます。

付記：本研究は公益財団法人博報児童教育振興会第 10 回児童教育実践についての研究助成「生活者としての外国人保護者のための学校プリント研究」(研究代表者：李曉燕) の成果の一部である。

²⁾地域によって「自然教室」ともいう、筆者注。